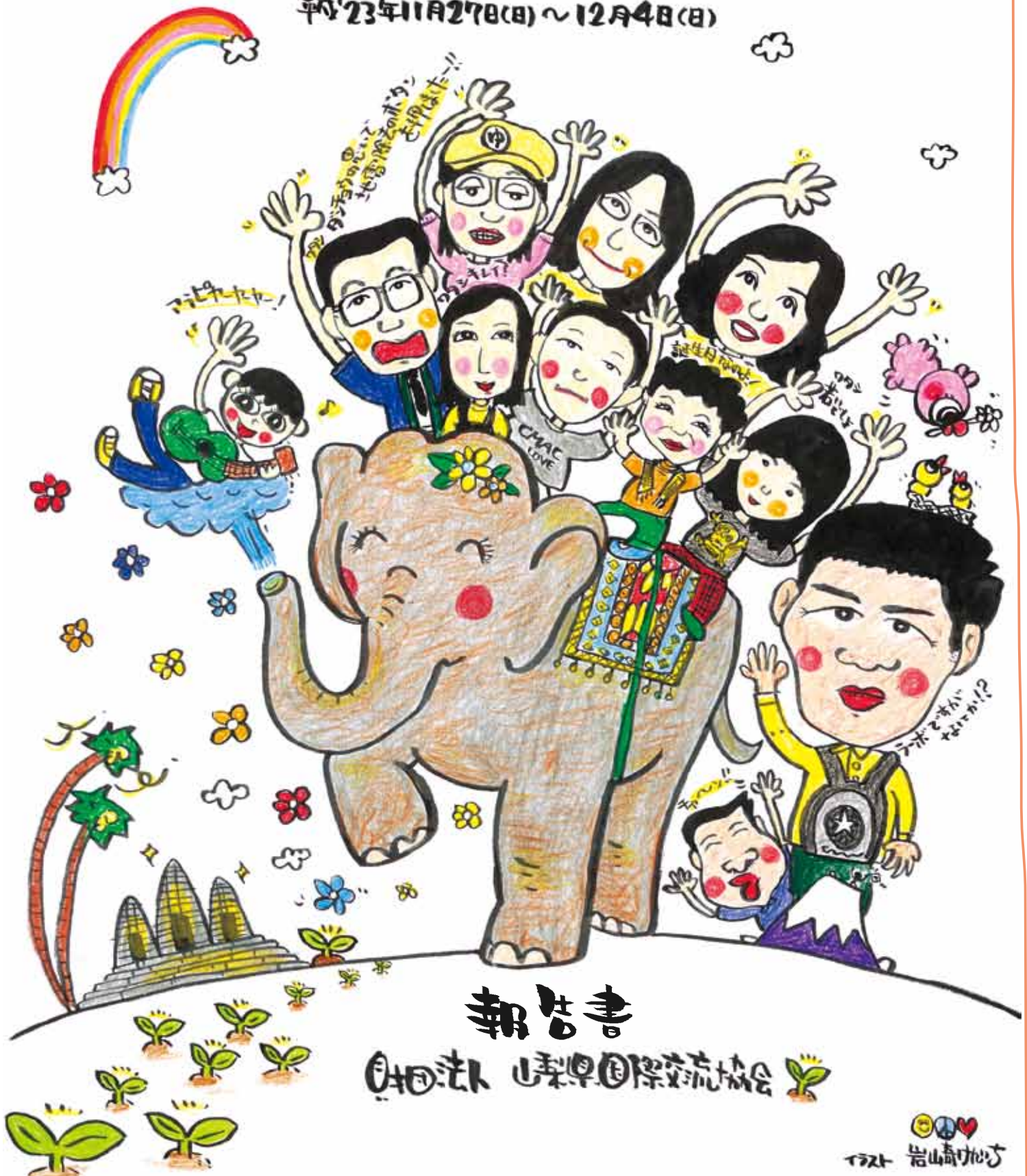


カボジアスタンプ

～カボジアの風を感じて～

平成23年11月27日(日)～12月4日(日)



報告書

岩山国際交流協会

目次

- 1 **はじめに** ～繋いでいくことが信頼と希望を育む
カンボジア・スタディ・ツアー団長 高山 時政
都留市立禾生第二小学校 校長
- 2 **コンセプト**
- 3 **日程表**
- 4 **カンボジア基本情報**

「カンボジア・スタディ・ツアー」を振り返って
- 5 「どうしてカンボジアなの？」
加藤 邦一
- 6 「カンボジア・スタディ・ツアー 2011 に参加して」
浅川 建子
- 7 「バットンバンの思い出」
高石 優子
- 8 「カンボジアを訪れて」
菊原 みどり
「カンボジアの子どもと触れ合って」
平出 ゆかり
- 9 「彩り」
近藤 孝子
- 10 「あじのもと カンボジア」
コーディネーター 岩崎 けんいち
- 12 **事前研修**
- 13 **事後研修**
- 14 **活動&交流風景**



はじめに

私にとって、カンボジアという国との出会いは前任校の初狩小学校での取り組みでした。初狩小学校では5年前から全校でアルミ缶を集め、その収益金をカンボジアでの地雷除去や地域の復興、住民の生活再建支援のために活動している「豊かな大地」様に寄付をしていました。

一昨年、5・6年生から地雷で苦しむカンボジアの様子や実際に地雷を除去している様子を知りたいという要望があり、地雷除去機を開発した山梨日立建機の社長、雨宮清氏の講演が実現しました。

昨年は、(財)山梨県国際交流協会設立20周年記念事業として、「カンボジアにおける地雷除去と復興地域の人々の交流事業」が実施され、山梨県立国際交流センターにおいて「カンボジア・デー」の開催や初狩小学校との学校交流などが行われました。学校交流では、カンボジアから農業指導をおこなうPDRDのセン・スヴォー氏、CMAACチャン・ソンパー氏、「豊かな大地」カンボジア事務所のモン・ソンパー氏の3名、「豊かな大地」事務局長工藤春樹氏、山梨県観光部および国際交流協会職員、JICA関係者、そして、通訳を兼ねて神奈川から、ボル・ポト政権下の内戦により両親を亡くされ、難民として1980年に来日した久郷ボンナレットさん、チャリティコンサート等を通してカンボジアに学校を建てるといった支援活動を行っているシンガーソングライターの岩崎けんいちさんらが来校し、「アルミ缶のむこうに、思いをつないで」というテーマで、全校児童との交流を行いました。これらの講演や交流を通して、私たちの一方通行だった学びが、「アルミ缶を集めること」の意味を改めて問い直す、実のある学びに変わっていったことを思い出します。

そして、今年の11月27日(日)～12月4日(日)に実施された「カンボジア・スタディ・ツアー」は、初狩小学校全校児童の思いが禾生第二小学校全校児童へ繋がり、さらにカンボジアのスラッパン小学校全校児童・教職員・地域住民に私たちの思いが広がっていくことに感慨深くなりました。昨年日本に訪れたカンボジアの3名との再会は、旧知の友人に会う懐かしさや嬉しさを感じるとともに、信頼関係を強くしました。

さて、「カンボジア・スタディ・ツアー」では、復興に取り組む「現在のカンボジア」を知ることが目的として、人々の生活や文化に触れ、地域の人々や子どもたちと交流を図り、必要とされる国際協力とは何か、国際貢献とは何かについて一緒に考える機会として計画されました。

そのため、一般のツアーでは体験できない、スラッパン小学校訪問、CMAAC地雷処理現場の見学、ボルポト時代に文化人等2万人の拷問を行った、高校の建物を強制収容所にしたトゥールスレン博物館、虐殺が行われたキリングフィールドの見学、地雷博物館や農業整備環境支援現場の視察、アンコール遺跡群の見学等の大変充実した内容や笑顔の絶えない屈託のない明るい人々との交流の旅となりました。

学校訪問では、禾生第二小学校の子どもたちに協力していただいた文房具などの遊休品や子どもたちの絵や習字等の作品を届けてきました。学校訪問を通して、この子どもたちと禾生第二小学校と交流が広がり、将来、両校の子どもたちが日本やカンボジアを行き来するようになり、さらに世界に飛翔し活躍できる人材になることを夢見ています。

今回のツアーの特徴は、事前・事後の学習会の充実があげられます。また、一人一人の問題意識が高く、カンボジアに対する課題を持って臨んだこと、個々の特性が生かされたツアーとなり、前述したように貴重な体験からそれぞれの方が深い学びをすることができました。今後、ツアーの体験を生かし、それぞれの立場で活躍されることと思います。

「カンボジア・スタディ・ツアー」を企画し、素晴らしい旅を作っていただいた(財)山梨県国際交流協会様、豊かな大地様、CMAAC様、山梨日立建機様をはじめとする関係各位に感謝とお礼を申し上げます。

最後に快く職場や家庭から押し出していただいた同僚や上司、ご家族の皆様へ感謝申し上げ、「カンボジア・スタディ・ツアー」が日本とカンボジアを繋ぎ、希望と信頼の輪を広げたことや参加者一人ひとりの思いの発信を通して、山梨県民に「カンボジアの現状」を周知されていくことを願っています。ありがとうございました。

繋いでいくことが信頼と希望を育む



カンボジア・スタディ・ツアー団長
都留市立禾生第二小学校 校長

高山 時政



コンセプト

● 趣 旨

平成22年度に実施したカンボジア交流事業の成果を踏まえ、国際協力・国際貢献に対する認識を、なお一層深めることを目的として、今年度は、広く県民の参加を募り、カンボジアへの「スタディ・ツアー」を実施する。

この「カンボジア・スタディ・ツアー」では、昨年度の交流事業でカンボジアから招へいた3名が、訪問先となるバットンバンやシェムリアップなどで現地の説明を担当する。これにより参加者は、カンボジアの人々が必要としている国際的な協力とは何か、また、私たちが地域レベルに関わることができる国際貢献とは何かについて考える機会とするとともに、復興活動に日本のNPO法人等が貢献している実態について学ぶこととする。

また、地雷被害で苦しむに至った歴史的背景や、地雷がもたらす様々な影響などについて、関係者などから直接話を聞き、国際協力の必要性についての理解を深める。

更に、音楽活動を通じて、カンボジアに学校を建設するための支援活動に取り組んでいる本県出身のシンガーソングライター、岩崎けんいち氏がコーディネーターとなり、現地の小学校等を訪問し、子どもや地域の人たちと音楽交流を図る。

● 実施期間 平成23年11月27日(日)～12月4日(日)【6泊8日】

● 定 員 15名

● 実施内容

(1) ○事前研修

★ 第一回事前研修／11月5日(土)

山梨日立建機見学及び地雷除去活動説明 社長 雨宮 清氏

『『豊かな大地』の活動』事務局長 寺平 誠氏

「カンボジアでの音楽交流」岩崎けんいち氏

※旅行社説明会

★ 第二回事前研修／11月12日(土)

「カンボジアでの音楽交流II」岩崎けんいち氏

講演会&カンボジア伝統舞踊「カンボジアの空の色」久郷ポンナレット氏他

○事後研修

★ 帰国報告会&国際理解セミナー／平成24年1月15日(日)

国際理解セミナー「戦争」と「援助」に翻弄されたカンボジアの人々

～バリ和平協定から20年を振り返って～ 清水 俊弘氏

(2) 訪問先 ・オタワ条約会議 特設展示会場

・カンボジア地雷除去センター バットンバン事務所 (CMAC)

・シェムリアップ地雷博物館

・バットンバン州スラップン HITACHI KENKI 小学校等

(3) 交 流 バットンバン州スラップン HITACHI KENKI 小学校での音楽交流

(4) 観光視察 キリングフィールド、トゥールスレン博物館、アンコール遺跡群(アンコールワット、アンコールトム)、トンレサップ湖他

(5) その他 地雷撤去現場視察等

● 当事業に関係する機関

カンボジア地雷除去センター (CMAC: Cambodia Mine Action Centre)

カンボジア地雷除去センターは、カンボジアで暮らす人々が、地雷の被害に遭うことなく、安全な生活環境のもとで農業復興や開発活動に従事できることを目的として、国が設置した地雷除去を専門に行う機関。

その起源は、UNTAC(国連カンボジア暫定行政機構)の地雷除去作業と、そのための訓練を指導した地雷除去訓練部(MCTU)であり、1993年に現在の「CMAC」となった。

特定非営利活動法人「豊かな大地」(GEJ: Good Earth Japan)

NPO法人「豊かな大地」は、カンボジアにおける地雷除去後の土地で、人々が自立した生活を営むことができることを目指して、農地整備をはじめ、農業技術の普及及び生活環境改善のための支援活動を行っている。

日立建機(株)OBが、国際貢献活動を行うために設立した非営利団体。

日程表

日付	都市	時間	交通機関	内容
11月27日 (日)	甲府発	4:15	専用車	専用車で成田空港へ
	成田発	9:30	VN301	ベトナム空港にてホーチミンへ
	ホーチミン着	13:40		着後、国際線乗り継ぎ(トランジット)
	ホーチミン発	15:50	VN920	ベトナム空港にてプノンペンへ
	プノンペン着	16:30	専用車	空港にてお出迎え、ホテルまでご送迎 ホテル：HOLIDAY VILLA HOTEL 泊
11月28日 (月)	プノンペン	朝	専用車	ホテルにてブリーフィング
		終日		プノンペン観光 ① 歴史、生活文化(王宮、銀寺、セントラル・マーケット) ② 内戦の歴史(キリングフィールド、トゥールスレン博物館)
		夕刻		サンセットクルーズ ホテル：HOLIDAY VILLA HOTEL 泊
11月29日 (火)	プノンペン	午前	専用車	地雷処理関連展示場見学 ※オタワ条約第11回締約国会議開催のため特別展示
	プノンペン発	11:00		陸路にてバットアンバンへ移動、途中、レストランにて昼食
	バットアンバン着			バットアンバン到着 ホテル：KHEMARA HOTEL 泊
11月30日 (水)	バットアンバン近郊	午前	4WD	陸路にて「豊かな大地」活動地の村、スラップンへ スラップン HITACHI KENKI 小学校訪問 (授業見学&子ども達や村民と音楽交流他)
		午後		ルセイロ地雷撤去現場を視察 ため池やラテライト舗装等インフラ整備の見学 ホテル：KHEMARA HOTEL 泊
12月1日 (木)	バットアンバン発	午前	専用車	CMAC 事務所見学、陸路にてシェムリアップへ移動(約6時間)
	シェムリアップ着	午後		シェムリアップ地雷博物館見学 アンコールトム等 見学
		夜		伝統舞踊(アプサラダンス)を鑑賞しながらの夕食 ホテル：ROYAL CROWN HOTEL 泊
12月2日 (金)	シェムリアップ	終日	専用車	アンコール遺跡見学(アンコールワット) (タプローム寺院他、小回りルートの遺跡群) スバエク(影絵)を見ながらのご夕食 ホテル：ROYAL CROWN HOTEL 泊
12月3日 (土)	シェムリアップ	午前	専用車	トンレサップ湖クルーズ
		午後		自由行動
		夜		夕食後、空港までご送迎
	シェムリアップ発	21:35	VN3822	ベトナム空港にてホーチミンへ
	ホーチミン着	22:35		着後、国際線乗り継ぎ(トランジット) 機中泊
12月4日 (日)	ホーチミン発	0:05	VN300	ベトナム空港にて帰国の途へ
	成田着	7:50		成田空港到着
	成田発	10:00	専用車	専用車で甲府へ
	甲府着	13:30		甲府到着後、解散



the Kingdom of Cambodia

● **国名** カンボジア王国



● **面積**

約18.1万平方キロメートル
(日本の約2分の1弱)

● **人口**

13.4百万人 (2008年政府統計)

● **首都** プノンペン

● **民族**

カンボジア人 (クメール人) が90%

● **言語** カンボジア語

● **宗教**

仏教 (一部少数民族はイスラム教)

【外務省データ 2011年9月現在】

● **地理**

この国の中心には国際河川の大河メコン川が流れ、水運を担っている。主食は米で稲作農業が盛んである。この国の中央付近にはトンレサップと呼ばれる大きな湖があり、その北方にはクメール王朝の遺跡として世界的に有名なアンコール・ワットやアンコール・トムといったアンコール遺跡(1992年、世界遺産登録)が存在する。

国土の大部分は海拔100m以下であるが、プノンペン西方にカルダモン山脈が連なり、最高峰プノン・アオラル山(1813m)がある。

モンスーン気候帯に属し、5～10月が雨季、11～4月が乾季である。雨季にはタイ湾からの風で気温は22℃まで下がり、乾季には北東風で40℃まで上がる。雨季のメコン川の増水でトンレサップ湖に逆流し、湖面積がほぼ10倍に拡大する。



加藤 邦一（富士川町）

「どうしてカンボジアなの？」と、お酒の席のことでしたが先輩から質問されました。「どうしてですかね。」と曖昧な返事ですませてしまった自分には、目的がなかった訳ではありませんでした。

いろいろな想いの中で過ごした今回のスタディー・ツアーは、「これがカンボジアだ！」と言っても過言ではない程、内容の濃い充実した一週間でした。これは2回の事前研修を含め去年、来県された3人の方々の熱意、それからユーモア満載のガイドさんのアシストがなければ、これ程有意義で楽しい旅にはならなかったかもしれません。

ツアー申し込み時に仲間から寄せられた支援金があり、それをカンボジアの子供達に届けたいとYIAに告げたところ、雨宮さんにいろいろと段取りをしていただきました。

結果として訪問先であるスラップン小学校とルセイロ小学校、そして地域の方々に届けることになったのですが、正直どのような形になるのか不安でした。

しかし、その不安を一気に取り払ってくれたのはモン・ソンバーさんでした。彼は地域と学校の先生達のリクエストを聞いてくれ、プノンペンに到着した次の朝には、今必要としている物のリストと見積額の提示までしてくれたのです。その内容は私には考えも及ばない素朴で生活と教育に必要な物ばかりでした。更に驚いたのはバタンバンへ出発の朝には、車に積めない黒板を除いた全ての物資を揃えてくれたのです。

申し訳ないことなのですが、カンボジアの人がこんなに素早く正確に行動して下さるとは予想もしていなかったので大変な驚きでした。本当に短い会話の中で私なりのボランティアや支援の考え方を彼が理解してくれたこと、また彼が持つ、カンボジアの未来を子供達に託すための取り組みには感激や感謝を超えて、信頼に至るものでした。

何も得る物がなければ自分達の活動は今回が最後だと考えていました。しかし、ソンバーさんのような方が大勢いると判ただけでも私にとって大きな意味のあることで、今後もささやかではありますが活動を続けていく決心をしたのです。

もう一つ考えを改めたことがあります。それは地雷処理活動です。

地雷についてはある程度勉強し、理解していたつもりでし

たが、実際にその活動現場に足を踏み入れたときに感じたことは、本当に大変な作業だということです。日本で言えば毎日が夏。そのような状況の中、重たいヘルメット、分厚い防護服を着用し炎天下に気の遠くなるような危険で地道な作業をされている姿には心を打たれました。地雷処理機械が導入され、人の手による作業などほとんどなく、処理されているものだと考えていたのです。

CMACのチャン・ソンバーさんが熱く語った言葉の中に、この過酷な作業を続けるためのモチベーションの話がありました。自らの手でカンボジアの地を安全で豊かな大地にしていこうと誇りを持たせるといった内容だったと記憶しています。このカンボジアという国が自立して行くにはこの「自らの手」が重要なのだと思うのです。車窓から眺めた周りの田んぼが30年前は激戦地だったことを知り、のどかな風景の印象が大きく変わりました。

今回、岩崎さんのギターと「アラピヤ」がより楽しく想い出深い旅にしてくれました。そこで私はこんな風に考えました。弾き手をカンボジアに例えるとギターやギターの弦は関わった私達、それぞれ太さや音色も違う、正確に弾いてくれないと良い音色にならない。最初は教えてもらって練習して、だんだん上手くなり、良い音ができるようになると周りから歌声がきこえてくる...そして一つの大きなハーモニーになって響きわたっていく。ボランティアとか支援ってそんな関係ではないかと。

今度「どうしてカンボジアなの？」って聞かれたら、「私はカンボジアでの多くの出会いが忘れられない。きっとあなたも行ってみるとわかってもらえるに違いない。20年前の内戦が未だに子供達にさえ影響している事実に驚かれるでしょう。この名前も知らない子供達に私ができることはこの事実を誰かに伝えることだ。」としっかり答えたい。

最後に今回のスタディーツアーを企画された皆様とGEJ、CMACの皆様、一緒に8日間を過ごした、高山先生、岩崎さん、浅川さん、菊原さん、ゆうこさん、たかこさん、平出さん、細微に渡り、気遣いしていただいた雨宮さん、仕事が忙しい中、わがまを聞いてくれた会社と社員みんな、楽しい時間をありがとうございました。

これをご縁に、また何処かでお会いできるといいですね。





浅川 建子 (甲府市)



今回のツアーに先立ち、二日間の研修の機会を企画していただき、また、同行の皆さんの情報等をお聞きし、現在のカンボジアの現状をある程度認識を持ち、カンボジアの大地に降り立った。ソンバーさんの温かい歓迎を受け、ほのぼのとした気持ちになった。

● プノンペン…

街並みはきれいに整備されていた。トンレサップ川にかかる日本橋は日本の援助によるものだとか！王宮、銀寺には大小さまざまな国宝級の彫刻や仏像が展示され、アンコール王朝の歴史を知ることができた。

また、キリンフィールドではポルポト政権の虐殺現場を見た。現在も人骨が大地に転がっている残酷な姿に憤りを覚えた。トゥールスレン博物館では痛ましい傷跡の様子や写真等を目のあたりにし、その惨状に目を伏せたくなるくらいの思いであった。

● バッタバンに移動…

道路事情が悪く、ドライバーさんの気遣いが伺われた。スラップン小学校では、生徒や多くの住民が小旗を振って出迎えてくれた。心をうたれ胸が熱くなった。高山先生からの手造りの品々や教材、サッカーボールなどを贈り、岩崎さんはギターでカンボジア民謡を皆一つの輪になって歌い、踊り楽しい一時を過ごした。

子供たちの授業を参観したが、皆、絵を上手に書いていた。常に素足だがきらきら光る目、笑顔はすばらしく本当に心の優しさを感じた。両親のいない子供たちが民族衣装を着て踊りを披露してくれた。本当に感動することがいっぱいだった。

今の日本は命の大切さが失われつつあると思う。親が子を、子が親を手にかける出来事が後を絶たない。カンボジアの地雷原で暮らす人々は貧しいけれど、家族や友達との絆、命の大切さを知っている。この様子を日本の多くの子供たちに伝える場があったらいいと実感した。心の豊かさが日本では失われているのではないかも…

● シェムリアップに移動…

世界文化遺産ではNo.1の観光地ともいわれるこの地…数々の石造建造物は一つ一つに伝説や神話が多く残り、歴史と神話の特徴をかいま見ることができた。

※今回のツアーを通じ高山先生、岩崎、加藤の三氏が復興支援に活動されていることに敬意を表すとともに、私も機会をつくり仲間の皆さんと協力させていただきたいという思いを強く持ちました。雨宮社長のもと、地雷除去や復興支援に多くのスタッフがご尽力されていることに本当に感銘を受けました。

また、モン・ソンバー、セン・スヴォ、チャン・ソンバーの三氏には心温まるおもてなしをしていただくとともに、滞在中お忙しい中私たちに同行してお世話をさせていただき感謝の気持ちでいっぱいです。そして、ラーヴォさんにも……

雨宮さん、いろいろサポートありがとうございました。大変楽しく有意義な旅でした。この尊い経験を一生の宝物として大事にしていきたいと思えます。



高石 優子 (甲斐市)

11月29日午後、プノンペンから半日かけてのドライブでバタンバンに着きました。11月30日、朝7:30にバタンバン中心のホテルから、3台の四輪駆動車に分乗し、CMACのチャン・ソンパーさんとGEJのモン・ソンパーさんの案内する車について行きました。今回の旅のメインのひとつ、NPO法人「豊かな大地」(GEJ)が建てたスラッパン小学校への訪問です。

カンボジアには未だ一億個以上の地雷が埋められていると言われていて、特にバタンバンはタイとの国境もあり、一番多いとのこと。山梨日立建機がCMAC(カンボジア地雷除去センター)と連携して、地雷撤去の活動をしています。NPO法人「豊かな大地」では地雷除去後の土地の農地整備をはじめ、このような学校を建てたり生活支援活動を行っています。

プノンペンからバタンバンに来る途中もそうでしたが、地平線まで続く田んぼや畑、ところどころに果物の木々が見えとても美しい風景でした。メインの道から少し入ったところでは川の中で牛達が水浴びしていて気持ちよさそう…と思ったら、人間たちも茶色い水の中に…大丈夫かな?と思いながらも自由に楽しそうに見えました。

予定時間より30分遅れ9:30頃小学校に着くと門のところで校長先生や村長さんたちに迎えられ、また門から校舎まで子供たちがカンボジアと日本の旗を両手に持って、気温30度以上の暑い中出迎えてくれました。校舎は4つの教室とトイレが併設され、約100人の生徒(女子60人、男子40人)に対して先生がたった4人とのこと。景色もよく、のどかなところで、以前は地雷原の中だったとはとても想像が付きません。校舎の中に入って、校長先生、村長さん、教育局の局長さん、また美術学校の先生から歓迎と感謝のお言葉をいただき、私たち訪問者からは代表として高山先生にあいさつしていただきました。その後生徒たちの授業風景を見に教室へ入り、子供たちの描いている絵を見ることができました。周りの風景や身近な自分たちの住んでいる家や家族などが題材ですが、色をたくさん使い、太陽を入れて描く子が多く明るい印象を受けました。とにかく絵の上手さには驚きました。それからは私たちの折り紙教室です。私はせっかくなのでここで日本から持ってきた浴衣に着替えて、汗だくになって?子供たちに折りツルを教えました。

その後は全員校庭に出て美術学校から特別に来てくれた綺麗な民族衣装を身にまとったすてきな生徒たちのアプサラダンスの披露があり、また我が岩崎けんいちさんの「アラピア

の歌とパフォーマンス、みんなで歌いながら輪になって、最高に盛り上がりました。

ところで岩崎さんの隣で一緒になって一番盛り上がっていた人は誰でしょう?学校関係者でも父兄の方でもなく、近所から楽しそうだからやってきたおじさんのようでした。岩崎さんの人柄の良さや気持ちの大きさもありますが、どんなところで盛り上がるカンボジア人も本当に楽しいです。

山梨から持参したプレゼントの贈呈後、みなさんと自由に交流の時間があり、特に着物に興味を持ってくれた美術学校アプサラダンスの先生や生徒たちに帯の結び方を聞かれたり、あちらの民族衣装のスカートのひだの折り方等おしえていただいたり、一緒に写真を撮ったりして楽しく交流しました。美術学校は孤児院だそうです。これからもみんなで楽しくダンスもがんばって行って欲しいなと思いながら、別れを惜しみつつ次に向かったのは同じバタンバンのルセイロというところの地雷撤去現場でした。

カンボジアのお米は美味しく日本人の口に合いますが、特にバタンバンは一番おいしいお米がとれるそうです。そのせいか?バタンバンは美男美女が多く、俳優さんが多いそうです。

カンボジアはもともとは肥沃の土地でもあり豊かな国です。アンコール遺跡はその象徴です。他の国との戦争もあったでしょうが、近代は大国に翻弄され、内戦、特にポルポト独裁政権下では人口の約半数もの尊い命が奪われてしまったと聞きます。地雷もその時々の戦争や内戦で埋められました。ポルポト時代の裁判も最近やっと始まっているようですが、その半面当時の軍人が今なお軍隊にもいて、「復讐しない」という国の理念がいきているのではないかと思います。地雷は対人及び対戦車地雷があり、その多くは、中国製、ロシア製、アメリカ製だそうです。地雷の撤去を支援したり技術協力している国は日本が一番だと言われています。地雷で足を失っても笑顔がいっぱいのカンボジアに夢を感じます。気の遠くなるような地雷原の広さと地雷の数に立ち向かって少しずつ撤去作業を続けている人たちの安全をお祈りしたいです。

最後に(財)山梨県国際交流協会の雨宮さんをはじめ、団長の高山先生、コーディネーターの岩崎さんや参加者のみなさん全員いい方たちばかりで楽しいスタディーツアーになりました。現地ではGEJのモン・ソンパーさん、CMACのチャン・ソンパーさん、そしてずっと私たちを案内してくれた日本語完璧なガイドのラーヴォさんに心より感謝いたします。





「カンボジアを訪れて」

菊原 みどり (北杜市)



いよいよ、カンボジア。飛行機の窓の外を見ると平らな大地に池や川など水が多く見られた。水を制し、水によって富を得た国らしい風景でした。

やっと行くことが出来たカンボジア。私がカンボジアを知ったのは、雑誌に書かれてあったある青年の記事でした。もう30年以上も前のことです。内容はもう忘れてしまいましたが、「決して入ってはいけないアンコールワット」「死を覚悟しても見たかったアンコールワット」、その部分だけが妙に記憶に残っています。それを私もいつかは見てみたい。けれど、行くことはできない場所だと長い間思っていました。それが、今回のスタディ・ツアーで行けるとあって、胸の高鳴りが止まりませんでした。

朝日に照らされて現れたアンコールワットはとても美しく、その壮大な建物はとても人の手で作られたものとは思えませんでした。来てよかった。時間を忘れてずっとここにいたいと思うほどでし

た。ところどころまだ修復されていない所や今修復されている所が見えます。

今回のスタディ・ツアーの目的の一つである「真に必要なとされている国際協力とは何か」というものの答えの一つがここにあるのではないかと感じました。

また、内戦のことも、とても考えさせられました。辛い混乱と植民地支配・長い内戦・大量虐殺など。そんな歴史の中でも強く生きてきた人々。戦争が無かったらきっともっと幸せに暮らせていたのに。それでも、私たちが触れたカンボジアの人々は陽気で明るく、少しはにかむように笑う子供たちはとても可愛かったです。

この国に来て、移動中のバスの中から見た風景は地球が丸いことを感じさせる、どこまでも平らな大地でした。

地平線に沈む太陽は美しく、とても広大でした。カンボジアはこれからの国。今後、どのように変わっていくのか楽しみです。



「カンボジアの子どもと触れ合って」

平出 ゆかり (長野県)



私は、カンボジアの子どもに出会って、二つのことを感じました。

一つ目はカンボジアの子どもたちの遊びが、日本の子どもたちの遊びと対照的であるということです。カンボジアでは、物質的に貧しいからこそ、子どもたちの遊びは、外で身体を動かす集団遊びでした。しかし、日本の子どもたちの遊びは、テレビゲームや携帯電話などを使った個人での遊びが多く見られます。川で泳いだり、3、4メートルもの高さのある橋から川へ飛び込んだり、外で大縄跳びをするカンボジアの子どもたちは、本来の「子ども」の姿に見えました。自然の中であるものを使い工夫して遊ぶ姿は、子どもたちの考える力や、創造する力をつける場になっているのではないのでしょうか。

また、集団遊びの中で人間関係の作り方を学び、カンボジアの温かい人柄が生まれているのではないのでしょうか。そんな子どもたちを見ていて、カンボジアという国はいろんな可能性と未来のある国だと感じました。

二つ目に感じたことは、子どもを大人の都合で使うことへの怒りです。外国人観光客を見ると、物売りの子どもたちが近寄ってきます。こういった子どもたち

は、一部の大人の金儲けの道具として利用されているのです。つまり、私たちがいくら商品を買っても物売りの子どもの収入にはなりません。逆に、物売りの子どもが増えてしまうことに繋がると私は思います。買う人がいるから、低コスト雇え、外国人観光客が同情しやすい子どもが駆り出されるのではないのでしょうか。私は、カンボジアから物売りの子どもを無くしたいと強く思いました。そのために私が日本からできることは、日本人がカンボジアに行った際、できるだけ物売りの子どもから物を買わないように伝えることだと思います。カンボジアの子どもが、金儲けの道具として低賃金で重労働をさせられるのではなく、仕事に見合った賃金をもらえる日が早くきて欲しいです。

このスタディ・ツアーを通して、カンボジアから学んだことを日本での生活や活動に取り入れながら、カンボジアに対して私ができることを考え実行していきたいと思いました。そして、これからもっとカンボジアと関わっていきたいです。

最後になりますが、このような機会をくださった(財)山梨県国際交流協会、ツアーを通して出会ったたくさんの方に御礼申し上げます。ありがとうございました。

近藤 孝子 (甲府市)

「今は12月20日深夜丑三つ時。思い出の詰まった写真達を眺めながらパソコンに向かっている。たった数週間前の出来事なのに遠い昔のようなつい最近の事のような…あっという間に過ぎていった8日間は夢のような日々でした。

友に便乗して行っちゃおうかな～などと軽い気持ちで申し込んだこの旅。

8日あるならベトナムにも寄れたらいいのに…なんて考えていた私はカンボジアをなめていたのかも知れない(反省)。1、2日と経つうちにこの国の魔法(魔力?)にまんまとハマってしまった。8日間では消化しきれないくらい魅力的な国だったから。

予備知識が地雷とアンコールワットくらいしかなかった私は、ガイドブックの内容もおぼろげにその大地に舞い降りた。空港を降りての第一声はうわーっつめっっちゃ暑!!!

そしてきっと誰もが感じる青空とキラメク太陽と笑顔。とても悲しい過去を持ち辛い体験をしているのに、この国の人たちはとても力強く明るい。どうしてこんなにも穏やかでいられるんだろう?? どうやって困難を乗り越えて来たんだろう?? そんな疑問はどうしてもよくなる程彼らの屈託ない笑顔は美しかった。自分が抱えていた悩みなんてとてもちっぽけなモノに思えてくる。

滞在中の私は、自分でも驚くほど笑って時に泣いて。理不尽な現状にやり切れない気持ちになったり怒りを覚えたり。それでも明るく前向きに生きようとしている彼らに勇気づけられた。たくさんの思い出達はこうして文字にする1000字じゃ語りつくせないくらい深く心に刻まれていて、次々と溢れてくる。美しい大地と人々の大らかさ優しさに触れて私のささくれた心は少しずつ解れていった。非日常である外国が日常と変化していく。

しかし、暑さの苦手な私がああハードスケジュールの中無事に乗り切ったものだ。(しかも直前に酷い風邪をひいていた)ある意味キセキです。呆れるくらいよく食べておしゃべりして寝て、よく歩きよく学んだ。自分の人生もこうありたいと、がむしゃらに前を向いて歩きつづけた。

感慨深い幾つもの思い出はあるけれど、やはり一番は多くの子供達と触れあえた場所、スラッパン小学校。偶然に納めたフレームの向こうでハミカミながら微笑む少女は今何をしているのだろう。元気であるのだろうか。年末の慌ただしい暮らしの中でふっと脳裏に浮かぶ。真直ぐな眼差しでじっと私を見つめる。子供達のキラキラした瞳は取分けキレイで吸い込まれそうだった。

私は日頃から男女問わずハグをするのが好きなのですが、それをここカンボジアでしていいものかどうかずっと悩んでいました。ガイドのラーヴォさんにも聞いてみたけれど「特に親しい者同士でしか肌を触れ合ったりはしない」と。

ただあの日、伝統舞踊を披露してくれた女の子達とクメール語のガイドブックを片手に会話していた時のこと。色とりどりの民族衣装をまとい、とても愛らしい彼女達は私に一生懸命言葉を教えてくれた。そのやり取りが本当に楽しくて時間を忘れ夢中になった。

そして別れ際、私がサヨナラを言う一人の女の子が私に近づき…ギュッと抱きしめてくれたのです! 突然の事でびっくりしたけれど、それはとても自然で温かい行為で。言葉も国も世代も越えて、彼女は私に心を許してくれんだな一と思うと涙が溢れた。ピースサインで共に写真に納まってくれた先生も「もう帰るの?」と寂しげに見送ってくれた。その表情は忘れられない。

旅は幾つもの出会いと別れが交差する場所。全ては偶然と必然。それは私の記憶の中で彩りとなり、ずっと色褪せない事でしょう。

いつも考えていた、自分に出来ることは何だろう。まずはこの国の現実を知ることから始まった。微力ではあるけれど、私達の行動が更に大きなパワーになりカンボジアの未来への希望に変わってくれたらと願います。

この旅で出逢った全てのこと、全ての人々に感謝。ツアーを共にしてくれたステキな仲間達に感謝。豊かな大地と美しい人々に愛をこめて。ありがとうございました。





コーディネーター 岩崎 けんいち

僕はカンボジアが大好きです。

人懐っこくて、旅人に微笑んでくれる、カンボジアが大好きです。僕をそのままいさせてくれるカンボジアが大好きです。

その大好きなカンボジアを案内役として参加できた今回の「カンボジアスタディツアー」は、続けて来たことの意味と、続けてこれたことへの感謝を強く感じた旅になりました。

仲間のミュージシャンとカンボジアに学校を建てたことから2004年より毎年訪れているカンボジア。話をいただいたときは思わず「ヤッター！」と言ってしまうぐらい嬉しかったです。

カンボジアというワードで私の名前があがる喜びと、はじめましての緊張感と、直前に入院してしまった大久保さんの不参加の寂しさをカバンに詰め込んで、総勢9名のカンボジアの旅が始まったのでした。

● 初日 プノンペン

気温32度。たくさんのバイクと車と人と何ともいえない匂いと湿度のある暑さ、事前学習である程度聞いてはいても、肌で感じるカンボジアは『行かないとわからない』を毛穴の奥から感じたことでしょう。さあ！皆一緒にカンボジアの風を感じに行きましょう！

空港には山梨にも来てくれたモン・ソンバーさんが出迎えて再会を喜んだのでした。山梨でもカンボジアでも会えるなんて夢のよう。この出会いや再会は明日をイメージするのに大きなものになるように感じています。

着いたその夜、夕食の後、私の好きな場所、王宮広場のあるリバーサイドヘトゥクトクで夜のドライブを楽しみました。アトラクションでも乗ってるかのようなトゥクトゥクタクシーのドライブは思わずイイな感じです。

夜の王宮広場は、たくさんの若者や外国人やお店で賑やか。アフター5を思う存分楽しんでいる様子がこちらウキウキしてしまいます。一方で物売りの子どもや物乞いの親子もまだ目にします。毎回どうしたらいいのかわからなくなりますが、名物みたいになってしまふ感覚や見方も恐いな、と思いました。

一日目はシャワーがお湯になったり水になったりとかと格闘しながらもおやすみなさい。

● 2日目 プノンペン

王宮や銀寺を見ました。現地ガイドのラーヴォさんのわかりやすい説明と聞き取り安い日本語とちょいちょい入るジョークが緊張をほくしてくれていました。僕らよりも日本のことを知っていて、僕らは恥ずかしくなったのでした。

お昼頃カンボジア最大の市場マーケット セントラルマーケットへ。食料品、衣類、雑貨なんでもそろそろ昔ながらのアジアの市場の光景が残る場所です。人の多さと匂いでクラクラしてしましますが、ものすごいエネルギーを感じます。弱い人間は、はじき出されてしまい、アピールをしないと前には進めない、勝ち続けないと生きていけないような雰囲気があります。だから僕も言葉なんてよくわからなくても大胆に行動していました。旅は人を成長させてくれる場なのかもしれませんね。

珍しい果物を買ってみんなで分けあって食べました。こういった光景もいいですね。『分けあって食べる』虫の素揚げ(タガメ、蜘蛛、ゲンゴロウ、イナゴなど)も目をひいていましたが、皆さん遠慮していました。食文化の違いも楽しいですね。

午後は、カンボジアの暗い歴史を勉強にキリングフィールド(処刑場)トゥールスレン博物館(強制収容所)へ行きました。ポルポト政権下の恐い時代のことをガイドのラーヴォさんの説明で改めてよく知ることができました。

知識人の家系を根こそぎ殺してしまったり、子どもを母親の目の前で木に叩きつけて殺したり、拷問、強制労働、聞くも辛い話でした。嘘みたいなホントの話に体が冷たくなったり熱くなったりしていました。キリングフィールドのたくさんのガイコツが納められた慰霊塔のガイコツはたくさんありすぎて、全然リアルに感じず、作り物みたいで、写真をパシャパシャ、その感覚に違和感を覚えて怖く

なりました。きっと戦争の真っ只中にいると、人を殺すという行為の感覚も麻痺してしまうのだろうかと考えていました。戦争は人を人で無くしてしまう怖いものですね。

事前学習での久郷ボンナレットさん(ポルポト時代に家族を殺されてしまった)の話の思い出していました。あのガイコツの中に自分の母親のがあると思ったら、早くお墓に休ませてあげたいという気持ちがよくわかりました。そしてあの展示の見せ方が正しいものかということも考えていかなくてはいけない、と思いました。

● 3日目 プノンペン、バタンバン

地雷除去活動にあたる会社やNGO等が集まりイベントをしている会場へ行きました。事前学習でお世話になった日立建機や豊かな大地も参加していました。

そして約束通り、山梨日立建機社長の雨宮清さんに会うことができました。カンボジアでの再会はとても嬉しいものでした。最前線で地雷除去にあたる人達や最先端の技術を学ぶことができ、雨宮さんのやって来たことは同じ山梨県人として誇りに思います。

自ら地雷除去の最前線で活動し続けている姿勢や思いは必ず世界を変えて行くように感じました。

『地雷で被害にあった人達が家族と重なるんだ』と言っていた雨宮さんの言葉が印象的でした。自分のことのように考えてみると何をしたらいいのかが見えてくるのでしょうか。町工場のおじさんは今や世界を変えて行くかけがえのない人になってるのでから凄くカッコイイです！僕も頑張ろうという気持ちが高まりました。勇気ありがとうございました。

● バタンバンへ

あっという間にプノンペンともお別れ。

カンボジアツアーでもなかなかコースに入らない場所なので、スタディツアーならではの日程にワクワク。プノンペンからバタンバンへ車で5時間、移動中いろんな町を見てきましたがプノンペンの目覚ましい発展がよくわかる移動でした。プノンペンは発展していきませんが、田舎はまだまだ貧しい暮らしをしている人達が多いようです。しかし、皆深刻な暗い顔はしていないのです。明るいです。病気で元氣、お金が無くても陽氣、豊かさとはなんだろうかと考えさせられました。

変わっていくものと変わらないでほしいものを移動中の車から見ながら何かを探していました。長い移動時間ではありましたが、とても大切な時間になったように感じました。

バタンバンは素朴な田舎町。

その夜、昨年、山梨での「カンボジア交流事業」に来ていただいた3人が素敵なディナーを用意してくれました。カンボジアではお客様に出来る限りのおもてなしをするのが礼儀のようで、再会とカンボジア料理を大いに楽しみました。そういう気持ちはどこでも同じなんだなぁと思うと、言葉を越えて胸が熱くなるのでした。

● 4日目 スラップン小学校訪問

次の朝、地雷原だった場所の跡地に「豊かな大地」が建てた学校『スラップン小学校』を訪問しました。オフロードの凸凹道を四駆で2時間、朝から疲れました…

しかし、田舎にはまだまだ学校が足りていないというのがよくわかる道りでした。資材を運ぶのも建てるのも大変。地雷原となる厄介ですし時間もかかります。だから、日立建機や豊かな大地の役割はカンボジアの明日を担っている仕事だということが行ってよくわかりました。まだまだあきらめてない人達に出会って大変嬉しかったです。

小学校では歓迎会を用意してくれていました。校門から校舎までの道をアーチを作り日本の旗を振って迎えてくれました。教室に入ると近所のおじさんたちが民族楽器を演奏して迎えてくれました。が、その横には酒が…ここは教室…楽しそうでしたがその光景からも、教育や道徳などの道を通してこなかった大人達を感じるのでした。僕もギターを持ちカンボジア民謡のアラピヤを歌えば、盛り上がりは最高潮！まだ挨拶もしてないのに仲間になっていました。



音楽ってホント素晴らしい！言葉は通じなくても、音楽で仲良くなるという心は通いあったように思います。

子どもたちと折り紙をしたり、けん玉をしたり遊んだり楽しい時間でした。その反面折り紙がゴミになってたりするのを見ると、ん？て思いました。きっと誰もが、これでいいのかな？って思ったのではないのでしょうか。こちらが良かれと想着いても、その時だけで終わってしまうようなものを感じて、帰ってからでも、何か探しているようで落ち着かない感じはあります。これからは指導者の育成に力を入れていくやり方がいいのではないかと感じました。

自分で買ったものでないので、モノを大事にしないなあというのはカンボジアをずっと訪れていて感じていました。そういうことも含め、教える人を育成していくと学校の空気も変わって行くんじゃないかな。日本と同じがいいのかはわかりませんが、カンボジアにあったやり方があるはず。そのシステムを早くカンボジアの人が見つかるといいですね。

地雷原だった場所に学校が建つなんて素晴らしいです。地域には学校が1つ2つあって登下校する子ども達や、歌声や、おしゃべりや黒板のチョークの音や放課後のクラブ活動、子どもたちの夢がたくさん詰まった学校がひとつでも多く増えてみんな学校へ行ける環境を作るのは大人の仕事。子ども達の未来について様々な分野の大人が連携して新しい明日を作っていくなくてはいけないと改めて思いました。子ども達が安心して走り回れる大地がそこにいつでもありますように。なんにもないのに、なんでもあるようなスラッパン小学校の子ども達の笑顔でした。

最後はやっぱりアラビヤで大盛り上がり！

あの盛り上がりを見ていると世界がひとつになることも夢ではないかもしれないなあと思えるほど楽しい音楽のあるひと時でした。

●地雷原へ

実際に地雷原で地雷除去活動をする最前線へ行きました。プロテクターにヘルメットを万が一の為に装備。万が一があるかと思うと影が地雷原を踏むだけで腰が退けてしまいました。地雷原で畑仕事をする住民がいました。その横で地雷除去、普通なら立ち退きですが、今日明日を生きて行くためならやらなくちゃならないことのように。お金になる仕事がない状況が産む恐い環境です。

地雷原の看板がありますが、学校へ行っていない子どもは字が読めないで意味がありません。子ども達を危険から守るということからも、やはり教育は必要なのです。

この日、高山団長の押したボタンにより地雷がひとつ地球から除去されました。すごい爆発音に恐怖を感じました。爆音が体に突き刺さり、よく覚えておこうと思いました。なんで地雷なんか作るんだろうか。そんな子ども達の質問になんて答えたらいいか考えていた帰り道でした。

●最終地アンコールワットのあるシェムリアップへ

シェムリアップは世界遺産アンコールワットがあるので外国人をたくさん見ます。オシャレなお店もあってカラフルに賑やかな町。

アンコールワットは何回行っても素晴らしい、カンボジア人の心の故郷アンコールワット。

でも、まだ一度も見たことがないカンボジア人も多いと聞きました隣の県にさえ行ったこともない人もいますそうです。それは経済的な理由から、旅行という選択はないそうです。カンボジアの友人が『カンボジア人が旅行できる力を持ってほしい』と言ってました。

いろんな人との出会いの中から生活を向上させるヒントはたくさんあると思うので、それもカンボジアを発展させていくには大切なことかもしれないなあと思うのでした。

アンコールワットに古くから伝わる大切なことと今を生きる人たちの新しい知恵がカンボジアの明日を作っていくように感じたアンコール遺跡巡りでした。

アンコールワットの朝日もまた感動的でした。暗いうちから集まる人達。だんだん明るくなると世界各国の人達が東の空を目指して参道を歩いていました。その光景は世界平和の夜明けを世界中の人がそれぞれの場所から迎えに行くことをイメージ出来るようで、とても嬉しくなりました。

今回のスタディツアーもそうですが、みんなでひとつのことを考えたり共有することで生まれる繋がり、イメージを大きく膨らませて『ホントになるといいね』の『ホント』を実現させるための大きな力になるように思いました。

それぞれが集まって、ちらばって、今回、見て、見つけて、感じたことを誰かに伝えたり、毎日丁寧に続けていくことで、この世界は少しずつ新しい流れになって行くんじゃないかと思うのでした。それぞれが出来る精一杯のことをそれぞれの場所でやっていたらいつの日か道は繋がるように思います。そしてそこで歩んだ道のりについて盛り上がることでしよう。

やっぱり僕はカンボジアが好きです。

知れば知るほどその闇の社会に怖気づいてしまうこともありませんが、それでも次の一歩を踏み出してしまうのです。

僕がやらなくても、他の誰かが同じことをやるでしょう。でも僕はその他の誰かにいつでもなっていたいのです。

カンボジアは僕の道しるべ。

山梨で会ったカンボジアの3人とカンボジアで再会。この行ったり来たりのお会いこそ、明日を確かなものにしていくんじゃないでしょうか。「交流」と言ってしまうと二文字ですが、言葉では表現できない温かな風が心の中に入って来て、まだ温かいです。

出会いから始まる世界をイメージした帰り道になりました。出会った全ての人や風景にまた会いたい、と自然に思える温かなカンボジア・スタディ・ツアーになりました。

ありがとうございました。オーケン チュラウン！

さぁぁ みんな集まれ アラビヤを踊りましょう ほら楽しいリズムで 毎日が新しくなるよ ムオイビー アラビヤーヤヤーアラビヤー♪ あじのもと カンボジアアラビヤー♪

あじのもとカンボジア！





「事前研修」



● 第一回事前研修／11月5日（土）

- * 山梨日立建機見学及び地雷除去活動説明 社長 雨宮 清氏
- * 『『豊かな大地』の活動』事務局長 寺平 誠氏
- * 「カンボジアでの音楽交流」岩崎けんいち氏

● 第二回事前研修／11月12日（土）

- * 「カンボジアでの音楽交流Ⅱ」他 岩崎けんいち氏
- * 講演会「カンボジアの空の色」久郷ボンナレット氏
- * カンボジア伝統舞踊 久郷真輝氏



● 事後研修／平成 24 年 1 月 15 日（日）

- * 帰国報告会（山梨日立建機 雨宮社長を交えて）
- * 「カンボジア・スタディ・ツアー」写真展示
- * 国際理解セミナー「戦争」と「援助」に翻弄されたカンボジアの人々
～パリ和平協定から20年を振り返って～ 清水 俊弘 氏





プノンペン (王宮、銀寺、キリングフィールド、トゥールスレン博物館等)



1、2、3 キリング・フィールドにて 4、5 トゥールスレン博物館にて 6 「豊かな大地 (GE)」によるブリーフィング
7 昨年来日した GEJ 職員のモン・ソンバー氏 8 王宮、銀寺観光 9 トゥクトゥク タクシーに乗って夜のプノンペン散策
10 バイクの4人乗りは当たり前!? 11 セントラル・マーケットでランブータンやドラリアンを購入



オタワ条約会議 地雷処理関連展示場 etc.



1 トウクトウのお兄さんたちと談笑するコーディネーターの岩崎さん 2 地雷処理関連展示場にて 3 地雷犬と一緒に
 4 HITACHI ブースにて 5 山梨日立建機 雨宮社長と再会 6 カンボジアでフル活動している地雷除去機 7 高山団長と防護服
 8 地雷除去機 試乗 9 GEJ ソンバーさんおすすめのカンボジア家庭料理店でランチ 10 バッタバンバンへ向う車中からの風景



ルセイロ 地雷撤去現場



- 1 CMAC 職員より地雷除去活動について説明
- 2 防護服を着用していざ地雷原へ
- 3 緊張の中、地雷原を歩く
- 4 ズシンと思い防護服、立っているだけで汗が滴り落ちる
- 5 発見された地雷
- 6 地雷除去機での作業後、手作業で再チェックする CMAC 職員
- 7 遙か彼方で活躍している HITACH の地雷除去機
- 8 対戦車地雷のボタンを押す高山団長
- 9 地雷爆発、カンボジアからまた地雷が一つ消えた瞬間
- 10 帰り道、牛たちも家路へ
- 11 ポルポト時代、15,000 人余りの強制労働者により作られたコムピンポーイ浄水池 息をのむほど美しい夕日の裏側には悲しい歴史が横たわる



CMAC 事務所、シェムリアップ地雷博物館、アンコール遺跡群



- 1 チャン・ソンバー氏が勤務するCMACバタンバン事務所にて
- 2 隣接する地雷除去機等のメンテナンス工場
- 3、4 黙々と作業を進めるメカニックたち
- 5 CMACと共に未来のカンボジアを切り開く地雷除去機
- 6、7 シェムリアップ地雷博物館にて
- 8 たくさんの対戦車地雷
- 9 アンコールワットから眺める朝日は格別
- 10 高所恐怖症には辛いアンコール遺跡の階段
- 11 ガイドのラーヴォさんより壁画の説明
- 12 お茶目なコーディネーターの岩崎さん
- 13 タプロム遺跡は自然との共存
- 14 象に乗って遺跡めぐりも可(私たちは徒歩)



トンレサップ湖クルーズ



- 1、2 トンレサップ湖で働き、暮らす人々 3 クルーズを楽しむ参加者たち
 4 ボートからボートへ飛び乗り、ジュースを売るたくましい少女 5 湖で暮らすカンボジアの子どもたちは、6歳からボートを漕ぐ
 6 タイツなシャツが似合うクールな操舵手 7 気がつけば、デッキに「アラビア」が鳴り響く

編集後記

カンボジアは、ひとことで言い表すことのできない不思議な魅力を持った国。

プノンペンには、毎夜毎夜、いたる所でお祭り騒ぎ。貧しくても、仕事がなくとも、バイクにまたがり街へ繰り出す。屋台でお腹いっぱいになれば、怖いものなし。今、この瞬間を生きている。そんな雰囲気漂うカンボジア プノンペン。

年金が気になる日本国民にはちょっとうらやましい。

カンボジアから戻ってから、空を見上げている自分に気づく。恐ろしくてきっと涙が溢れて止まらなかつた地雷原。でも真っ青な空にぼっかり浮かぶ雲、日陰で昼寝している農夫や痩せこけた犬。その光景がやけに穏やかでピースフル。

あまりにも平和すぎて涙も出ないという私に、「あとで時間が経ってから泣けるんじゃない。」とコーディネーターの岩崎さんがポツリ。

確かにそうだった。帰国し、空を見上げていたら地雷原が見えてきて泣けてきた。

カンボジアの未来のために命がけで地雷原に入り、黙々と作業をするCMACの人々。のんきな私たちを地雷原に迎え入れてくれたことに感謝。あの炎天下の中、どっしり重い防護服とヘルメット、10分も地雷原にいただけでくらくらしてくるのに。

CMAC バットンバン事務所にあった地雷除去機は使い込まれ、かなりさびていた。どれだけの地雷を除去したのだろう。できるだけ多くの地雷を取り除くため、今日も丁寧にメンテナンスするメカニックたち。カンボジアの人々は、あまり仕事をしないというけれど、ここは違う。みんな一生懸命働いている。カンボジアの子どもたちと未来のために命をかけて闘っている。

地雷除去機の隅っこに FROM THE PEOPLE OF JAPAN の文字。事務所長をはじめ、職員、メカニックの皆さんは日本の援助にとっても感謝していた。その時は誇らしかったけれど、山梨に戻り、寒空に浮かぶ雲を眺めていたら泣けてきた。こちらこそありがとう。命がけで未来を切り開いている人たちに感謝してもらえることがうれしかった。長い年月をかけて地雷除去

機を開発した山梨日立建機の雨宮社長のモチベーションは、カンボジアの人々に支えられているのかも知れない。

カンボジアの子どもたちはたくましい。

プノンペンの繁華街、アンコールワットなどの観光地では、昼夜問わず、積極的かつ執拗に物売りを。トンレサップ湖では、私たちのボートに飛び乗ってくる果敢なジュース売りの少女がいた。そんな子どもたちに「アラビア」を届ける岩崎けんいちさん。音楽は、みんなを笑顔にし、互いの距離を縮めてくれる。岩崎さんが大きく見えた。

今回の旅は、盛りだくさんの内容で、移動時間も長く、少し忙しいスタディ・ツアーだった。カンボジアでのさまざまな想いを胸に、参加メンバーの皆さんそれぞれが充実した時間を過ごしていただいたのであればともうれしく思う。

カンボジアはまだまだこれからの国。

けれど、本当の「豊かさ」を教えてくれた素晴らしい国。その国を個性豊かな参加メンバーと一緒に訪ね、共に笑い、考え、残酷な歴史にことばを失い、濃く熱い時間を共有できたことが私の宝ものとなった。

このスタディツアーの担当であったことに感謝すると同時に、今回お世話になったすべての人々、特に、今回のツアーのためにアレンジを一手に引き受けてくれた「豊かな大地」カンボジア事務所のモン・ソンパーさん、CMAC 地雷除去センターのチャン・ソンパーさん、日本で出会い、カンボジアでもこうして繋がっていることに心より感謝している。ツアーメンバーを気遣い、常にあふれるユーモアで案内してくれた通訳ガイドのラーヴォさん、ありがとうございました。

カンボジアで出会ったすべての人々が、青空の下、いつまでも元気で、そして笑顔でいてくれますように。

感謝をこめて

(財) 山梨県国際交流協会 雨宮 由里恵



財団法人 **山梨県国際交流協会**



〒 400-0035 甲府市飯田 2 丁目 2-3 山梨県国際交流センター内 Tel. 055-228-5419 Fax. 055-228-5473 <http://www.yia.or.jp> webmaster@yia.or.jp



協 力 特定非営利活動法人「豊かな大地」 山梨日立建機株式会社 JICA 地球ひろば 都留市立禾生第二小学校

この事業は、財団法人 自治体国際化協会の助成を受けて実施しました。